

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のペスタロッチと言われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村(地域)を育てる学力」等を身につけるとともに、どの地域で暮らしてもふるさとを愛する、未来型人材の育成を行う。

村岡高校のある香美町の魅力

- 山・川・海の豊かな自然環境
- 但馬牛・マツバガニなど豊富なブランド食材
- スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

香美町の課題

- 若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
- 地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
- 雪不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

村岡高校の目指す姿

地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

＜研究開発の目標＞ 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

【村岡メソッドのイメージ図】

地域を知る

- ・コミュニケーション能力
- ・課題発見能力
- ・自ら学びに向かう力
- ・探究活動の手法

- ・観光施設経営者等による講義
- ・地域での調査実習
- ・地域関係者への提案

地域を深める

- ・新たな価値を創造する能力
- ・自己表現能力
- ・議論する力

- ・地域での探究活動
- ・全国の地域づくりを学ぶ合宿研修
- ・スポーツツーリズムの企画、提案

地域を創る

- ・課題解決能力
- ・プレゼンテーション能力
- ・コーディネート能力
- ・郷土愛

- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
- ・スポーツに関する資格取得
- ・HP・インスタグラムを活用した地域の魅力発信
- ・クラウドファンディングを活用した地域活性化プランの実現
- ・町長と将来の町について語り合う

＜村高発 地域元気化プロジェクト（全校生）＞

残酷マラソン大会等の企画運営スタッフ、5グループ（地域福祉・民芸・食文化・環境・吹奏楽団）の地域協働活動、村高フォーラム（探究活動の成果発表・パネルディスカッション）

地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人材の育成

事業対象学科の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169

学校全体の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169

連携・協力・支援 コンソーシアム構成団体



卒業生ネットワーク構築による関係人口の増加

目指す生徒像

地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

身につけたい力

具体的取組

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつむらおかこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	① 学校名	兵庫県立村岡高等学校				②所在都道府県	兵庫県
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年2クラス 合計6クラス	
普通科	57	62	50		169		
⑥研究開発構想名	ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発						
⑦研究開発の概要	地域活性の核としての高校の拠点機能化を推進し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>開発する「村岡メソッド」の「地域を育てる学力」とは、科学的概念と生活的概念が統一された、「生活の中で生きて働く学力」、「主体性や生きる意欲をともなった学力」のことを指す。したがって、地域住民とともに地域課題を実践的に解決するプロセス（地域づくりの過程）を通して「地域を育てる学力」は育まれると考える。</p> <p>本研究は、生徒自らが発見した魅力を活用した地域課題の解決策を考案し、実践することにより、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来を創出する基礎力である「地域を育てる学力」を育むことを目的とする。また、それらに寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒を目指す。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>【現状の分析】</p> <p>本校は、兵庫県の北西部の中山間地域に位置し、県下でも有数の豪雪地域である香美町に設置されている。この地域には、スキー場などのアウトドアスポーツを楽しむ設備が多く、かつては、多くのスキー客が訪れ、町内は活気に満ちていた。しかし、スキー客の減少、高齢化や町内人口の減少により、町の活力が課題となっている。</p> <p>そのため本校では、高校生の視点で地域の課題を発見し、地域課題の解消を目指す取組を2011年度より推進してきた。また、2013年度からは、全校生による「村高発地域元気化プロジェクト」を立ち上げ、翌年度には「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2系列を設置することで、地域に学び、地域と協働する学校づくりを進めてきた。しかし、より実践的に課題解決能力を培うためには、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を活用して新たなコンソーシアムを設置し、組織的、継続的に地域と一体となった「地域づくり」と「人づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>【研究開発の仮説】</p> <p>本研究は、地域に学び地域との協働活動を実践する学校として、探究活動、課題研究を自治体や地域住民と進めていく。その活動の中で、地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を醸成させることで、</p> <p>自律的な態度で社会と関わり続け、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来の創出することができる「地域を育てる学力」を獲得できる。</p> <p>「地域を育てる学力」は、生徒の将来に渡って、主体的に地域のポテンシャルを見だし、地域活性化に協働、参画する資質・能力として具現化され、当該資質・能力をさらに培うことで、それぞれの「ちいき」を愛し、地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人間の育成につながる。</p>					

<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 地域課題の解決につながる探究活動を、多くの地域住民と協働して取り組むためには、地域が抱える課題を正確に捉えるとともに、その課題が香美町の考える課題、地域住民が考えている課題と共通するものであることを見極める必要がある。 そのため本校では、多くの地域住民が参加可能な「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」の2つを探究テーマとして設定している。以下の2点を実施する。</p> <p>①「ふるさと教育」と「地域を育てる学力」の体系化 香美町内の幼・小・中学校で行われている「ふるさと教育」を、高校で実施する「地域を育てる学力」として体系化し、さらに大学生段階・社会人段階へと繋ぎ、地域づくりの循環経路をつくる。</p> <p>②新たな「人づくりネットワーク」を目指した住民参加型の探究活動の実践 学校で得られる科学知を、地域の生活知と関連づけて理解するとともに、地域に存在する生活知や生徒自身がもっている生活知を、科学の知識体系の中で理解する学習が必要となる。そのため、地域における人との関わりを豊かにする活動が不可欠であり、多くの地域住民が参加可能な探究テーマを設定することが重要である。これらを実現すべく以下のような地域課題に取り組み、官民学協働での「人づくりネットワーク」を構築しつつ、「地域を育てる学力」の形成を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 カリキュラム・マネジメントの推進にあたっては、校長のリーダーシップのもと、各関係機関との連携・協力を得て、校内ビジョン統括会議メンバーが、以下のようなPDCAサイクルのもと、評価・検証し教育内容の質の向上のために見直し、改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>P（計画）</u>：校内ビジョン統括メンバーを中心として、育成する資質・能力を学校全体で明確化し、カリキュラム開発専門家の助言を受け、教育内容の組織化を図る。上記の教育目標・内容は、学校運営連携協議会、高校支援会議等を通じて、地域社会との共有化を図る。 ・ <u>D（実施）</u>：担当教員が連絡・調整を図りながら、教育課程全体の有機的つながりを意識した教育実践を展開する。その際、地域協働学習実施支援員（教育コーディネータ：香美町地域おこし協力隊）」を中心として、地域の人的・物的資源の活用を推進する。 ・ <u>C（評価）</u>：生徒のパフォーマンスの総体的な評価活動、地域住民の意識調査（アンケート、ヒアリング等）を実施する。評価活動と調査の結果に基づき、目標とした資質・能力育成の達成状況を、教育方法論を専門とする大学教員等を交えて検証する。 ・ <u>A（改善）</u>：校内ビジョン統括会議メンバーを中心としつつ、全教員（ビジョン委員会）で生徒と地域の実態を踏まえた教育実践の改善・充実を図る。上記の取組は、コンソーシアムや高校支援会議、地域政策学や地域教育学を専門とする大学教員等との意見交換を反映させつつ、随時弾力的に実施していく。また、研究成果報告会を開催し、検証を行い、全国サミットへも積極的に参加し、次年度に向けての改善・充実につなげていく。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特 記 事 項</p>	<p>事業後にも持続性するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業後も講師、スタッフとして授業に参画しネットワークの一員になる。 ② 「村高フォーラム」を通して活動成果や「地域を育てる学力」の普及を小中学校、但馬地域の高校にも継続して行う。 ③ 町と連携し、提案した方策を町の事業として継続できるレベルとすることを旨とする。 ④ 「人づくりネットワーク」を発展させ、地域人材の育成、強化を図る。

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

【研究開発の実施体制】

管理機関名： 兵庫県教育委員会

1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 川戸 英明
兵庫県立村岡高等学校	校長 大垣 喜代和
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULE	代表 松岡 大悟
うずかの森（民間企業）	代表 西村 昌樹
やまもり村岡（民間団体）	代表 上田 治

2. カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属	備考
カリキュラム開発等専門家	筒井 一伸	鳥取大学地域学部	②
海外交流アドバイザー	(検討中)	(検討中)	
地域協働学習実施支援員	房安 晋也	香美町地域おこし協力隊	③

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

- ①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者
 ②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者
 ③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
兵庫県企画県民部地域創生局	企画参事	川井 史彦
兵庫県教育委員会	高校教育課長	西田 利也
香美町	副町長	今井 雄治
香美町	企画課長	水垣 清和
香美町教育委員会	教育総務課長	清水 幸信
鳥取大学地域学部	学部長	山根 俊喜
兵庫県立大学	教授	横山 真弓
村岡区自治会	会長	西村 功
入江産業	代表取締役	入江 善博

4. 経費

区分	金額（千円）	備考
委託費	3,150 千円	
管理機関よる負担	34 千円	
その他	千円	

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫（※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること）

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	